

「マナーキッズ®テニス教室」
の現状と課題

指導教員名 渡辺 剛 先生

平成 23 年度

昭和女子大学

人間社会学部福祉環境学科

中野 彩佳

目次

第一章	はじめに.....	2
第二章	「マナーキッズ®テニス教室」の歴史.....	3
第一節	日本テニス協会の歴史.....	3
第二節	マナーキッズ®プロジェクトの取り組み — 「マナーキッズ®テニス教室」 — ..	6
第三節	マナー問題についての現状.....	11
第三章	「マナーキッズ®テニス教室」を行った学校の現状と課題.....	15
第一節	研究目的・研究方法.....	15
第二節	結果と考察.....	17
第三節	品川区内と品川区外の取り組みについての比較.....	26
第四章	結論.....	30
	謝辞.....	32
	参考文献（著者五十音順）.....	32
	資料.....	33

第一章 はじめに

近年、中・高校生の電車の中での化粧、路上での地べた座り、社会人になっても挨拶ができない等、マナーの乱れが指摘されている。

戦後の民主主義の教育を受けた世代が、あらゆる分野、あらゆる所において指導的役割を担う時代を迎えているが、幼児期、児童期に「躰」「基本的マナー」という大事なことに家庭、幼稚園、学校、そして地域社会が、戦後以来ずっとなおざりにしてきたことがマナーの乱れの一因ではないだろうか。

これからを担う子ども達にマナーを身につけてもらうために、さまざまな取り組みが行われている。たとえば、日本テニス協会では、「マナーキッズ®プロジェクト」を実施している。その中には、「マナーキッズ®テニス教室」があり、テニスのアニメをきっかけにテニスに興味を持つ子どもが増える中で、この活動は子ども達の自発的な取り組みも期待されるのではないかと見える。

「マナーキッズ®テニス教室」は、専門家のマニュアル導入による挨拶、礼儀作法の習得、スポーツマンシップを体得できるプログラムを組み込み、日本人としての正しいマナーや礼儀・作法の習得、子どもの体力・運動能力低下の歯止めや運動で知力を育むことを目標としている。

しかし、たった一回の取り組みでは、子ども達の行動すべては変わらない。マナーキッズ®プロジェクトは、1回学校に行って指導するだけで「きっかけ」に過ぎない。そのため、家庭や学校側のフォローによって効果の持続が変わり、本教室実施後の家庭や学校側の取り組みが重要となる。

品川区立浜川小学校の成果報告（矢田：2011）では、本教室を契機に生活習慣、学習習慣の是正に真剣に取り組み、その成果が出ていることも明らかになっている。

篠原氏は受講した子どもの保護者を対象に質問紙調査を実施し、次のように述べている。「マナーキッズ®テニス教室に子どもが参加することで保護者が期待する効果には、子どもの変化のみに焦点が絞られていた。しかしながら、実際に教室に参加した保護者の満足度に最も影響を及ぼしていたのは、子どもの変化のみならず保護者自身がマナーや躰に対する理解を深めることであった。こんなことから、マナーキッズ®テニス教室では、子どもと一緒に保護者が直接的、間接的に参加して同時に学ぶことが重要であるといえる。」（篠原：2005）

そこで、本研究では、子どもや若者のマナーの乱れに対する問題を自覚し、「マナーキッズ®テニス教室」を実施した学校の教師を対象にフォロー要領に基づいて作成した質問紙調査を実施し、本教室に対する評価やフォロー状況を明らかにし、「マナーキッズ®テニス教室」の現状と今後の方向性について検討することを目的とする。

第二章 「マナーキッズ®テニス教室」の歴史

第一節 日本テニス協会の歴史

1. 日本テニス協会の発足

日本テニス協会は、1922年に任意団体として発足した。初めは「日本庭球協会」という名称であったが、1980年に財団法人として再発足したのを機に、「財団法人日本テニス協会」（英語表記は The Japan Tennis Association、略称 JTA）と改めた。

日本テニス協会の目的は、協会の寄付行為（株式会社の定款に相当する規約）の第3条に「この法人はわが国におけるテニス界を統轄し、代表する団体として、テニス競技の普及、振興をはかり、もって国民の心身の健全な発達に寄与することを目的とする」と明記されている。そして、第4条では、この目的を達成するための事業として、次の11項目が掲げられている。

テニスの普及及び指導

全日本テニス選手権大会及びその他のテニス競技会の開催並びに国内で開催されるテニス競技会の後援、公認

テニスに関する国際競技会を開催し、または国際競技会への代表者の選考及び派遣並びに外国からの選手等の招待

テニスに関する公認指導員及び審判員の養成並びに資格認定

テニスの競技力向上

テニスに関する競技規則及び競技者規定の制定並びにテニスランキングの作成

日本テニス界を代表して、財団法人日本体育協会・財団法人オリンピック委員会（略称 JOC）、国際テニス連盟（略称 ITF）、アジアテニス連盟（略称 ATF）及び東アジアテニス協会（略称 EATA）に加盟すること

年鑑その他の刊行物の発刊

テニスに関する用具及び施設の検定並びに公認

テニス施設の管理運営

その他、この法人の目的を達成するために必要な事業

2. 世界の窓口となった日本テニス協会

1922年に発足「日本庭球協会」は、1923年に全日本選手権大会を創設し、第1回大会を開催した（男子だけ）。戦争の間は活動できなかったが、1972年にオープン・トーナメントを手がけることができた。その後、ジャパンオープンやデビスカップなどの国際大会も催し、世界と日本のテニスのかけ橋となっている。

日本が高度経済成長期に入ると、テニスは急速に広まっていった。その活動に一役買ったのが、海外プロテニスプレーヤーの来日である。テニスブームは瞬く間に日本中に広が

り、1980年の日本テニス協会の法人化へと繋がっていった。特に最近では、アジアへの貢献に力を入れ、ジャパンオープンを充実させ、選手と観客の視点で様々な活動を支援している。また、競技力の向上へ努力を費やすだけでなく、競技規則や競技者の規定を決め、審判員や指導員の育成にも力を入れている。

3. 「日本テニス連合」の結成

日本には、財団法人日本テニス協会の他に、社団法人日本テニス事業協会、社団法人日本プロテニス協会、日本女子テニス連盟の団体が設立されている。各団体のトップが2ヶ月に1度「スーパー連合会」と称する非公式な会合を持ち、日本のテニス推進のための方策、問題点を話し合ったが、各々の団体は独自の行動を取ってきた。

しかし、さらにテニスをより多くの方々に、魅力あるスポーツと感じてもらい、テニスを楽しんで貰うためには、4団体を通じたより強い協力体制を築いて行くことが必要であると考え、2009年に公式な任意団体「日本テニス連合」を結成した。

日本テニス連合では、4団体に横断的に存在する問題で、日本のテニス界をより強力に推進して行くために統一すべき制度、問題点等を公式に取り上げ、審議し、その解決案を策定している。

4. 「スポーツ振興基本計画」の取り組み

文部科学省は「スポーツ振興基本計画」の中で、国民の誰もが、それぞれの体力や年齢、技術、興味、目的に応じて、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことができる生涯スポーツ社会を実現することを政策目標としている。そして、できるかぎり早期に、成人の週一回以上のスポーツ実施率が2人に1人(50%)となることを目指している。また、スポーツは、人間が発達・成長し、創造的な活動を行っていくために必要不可欠なものであり、子どもの体力については、スポーツの振興を通じて、その低下傾向に歯止めをかけ、上昇傾向に転ずることを目指すと提唱している。

(財)日本テニス協会では、これを受けて、生涯スポーツ活動を通しての「ライフスキル」の向上を促進するために、テニスの普及活動として秋分の日を「テニスの日」に制定し、テニス協会、民間テニスクラブなど多くの協力を得て、全国一斉の「テニスの日記念イベント事業」を展開している。また、人々に健全な生活を営むために影響を与える各種の環境問題改善に取り組み、特に、地球を守るためにチームとして具体的な活動目標を定めた「チームマイナス6%」の啓蒙活動を推進している。

さらに、スポーツ振興基本計画に基づき、我が国におけるトップレベル競技者の国際競技力の総合的な向上を図るトレーニング施設として、ナショナルトレーニングセンターを2008年1月21日に開所した。(陸上トレーニング場は、2007年1月に先行開所)

ナショナルトレーニングセンターの機能として、ナショナルチームの強化と世界のトップ選手の輩出 次世代をになうジュニアの教育(JOC エリートアカデミー) テニ

スの技術、指導育成に係わるノウハウの総合的な集積 集積されたノウハウの全国に向けての発信と地域の支援 異種競技との交流（クロストレーニング）の5つがある。

そしてその運営の資金面を支える制度が「ワンコイン制度」である。この制度はテニス大会に参加する選手一人一人に、エントリーあたり100円（団体戦は1チーム500円）を負担する制度になっている。この制度は2008年4月1日以降に開催される大会から開始されている。対象となる大会は、地域テニス協会、都府県テニス協会の主催する大会および（財）日本テニス協会が主催・公認する国内大会が対象となっている。

5. キッズテニスへの取り組み

少子高齢化の時代の波を受けて、テニス人口の減少が指摘されている。そこで、テニス人口の増大を図るため「低年齢ジュニアに対する発掘、育成プログラム」を進めている。その取り組みのひとつがキッズテニスである。キッズテニスは、柔らかいスポンジボールを使い、無理のない「楽しいテニス」を低年齢層にしっかり広げ、育成することで、次の局面であるジュニア期でのノーマルテニスにつなげてゆく指導体系を確立させようとしている。

第二節 マナーキッズ®プロジェクトの取り組み 「マナーキッズ®テニス教室」―

1. 「マナーキッズ®プロジェクト」設立の背景と経緯

マナーキッズ®プロジェクトのきっかけは、1996年12月から開始した早稲田大学庭球部小学生テニス教室である。

早稲田大学庭球部は、従来から中学生、高校生を対象にしたジュニア合宿を開催してきたが、これを小学生にまで広げ、テニスという素晴らしいスポーツをできるだけ早い時期に親しむきっかけにしたい、そしてテニス教室を通じてスポーツマンシップ、挨拶等の基本的なマナーを体得して頂きたいという思いから1996年に小学生テニス教室を計画した。当時、田中理事長は、次のように考えていたと話している。

「挨拶」が出来ない社員が増えており、社内で「挨拶運動」を展開しなければならない状況にあり、疑問を感じていた。たまたま、近くの小学校の正門前で小学生が先生と出会っても挨拶もせず知らん顔という光景を目の当たりにした。どうも「挨拶」という基本的なマナーが家庭、学校で教えられていないのではないかと思った。

16世紀から19世紀にかけて日本を訪れた外国人は異口同音に日本人の礼儀正しさに感嘆の声をあげていた日本国民のこの変り様である。何故こうも激変したのだろうか。我々戦後民主主義の教育を受けた世代が日本社会のそれぞれの分野のリーダーになっているが、我々の世代は自分達の子供に礼儀作法、挨拶等の基本的なマナーをしっかりとつけてこなかったのではないか。その子供、すなわち我々の孫にあたる現在の小、中、高校生の礼儀知らずな態度は我々の世代の責任ではないかと思う。

テニスを心から愛された小泉信三先生は昭和25年「今の日本」の著書の中で、日本人は在来持っていた儒教の精神に基づく道徳的背骨(モラルバックボーン)がなくなっている、また、西洋文化の本質をしっかりとつかむことを怠った。いわば、背骨をもたない人間が多くなるのではと警告しておられたが、まさに杞憂されたことが現実になっていると述べている。

戦後民主主義の教育の中で育った一人として大いに自戒するとともに次世代を担う小学生にきちんと躰をする責任があると痛感し、芥子粒のような試みではあるが小学生テニス教室を開講してはと考えた次第である。

その後、田中理事長は、財団法人日本テニス協会のベテラン改革のメンバーとして活動していたが、頭にあったのは早稲田大学庭球部小学生テニス教室を全国レベルで実施できないかということであった。ベテラン委員会において、ベテランの選手に子どもの指導にあたってもらえないかと提案したところ、ベテラン委員会ではなく、普及指導本部に提案することになった。

2003年12月に財団法人日本テニス協会普及指導本部に普及指導本部「幼稚園・小学校

テニスプロジェクト」準備室発足を提言した。これが認定 NPO 法人マナーキッズ®プロジェクトの原点である。

2004 年 5 月 16 日には、第 1 回「幼稚園・小学校テニスプロジェクト」担当会議が開催された。2004 年 7 月 24 日には、実験として東京都中央区において、マナーキッズテニス・デモ教室を開催した。

読売新聞、朝日新聞に募集案内が出たこともあり、募集人員 100 名に対し、782 名の応募があった。当日、NHK のサタデースポーツ、翌日朝のニュースで教室の様子が全国に放映された。

実験は、中央区の他に静岡市、江東区においても行い、その結果、2005 年 4 月に財団法人日本テニス協会幼稚園・小学校マナーキッズテニス教室として発足することになった。

マナーキッズ®テニス教室に関する各地の小学校などの反応はよく、「挨拶をする子が増えた」「子どもをプラス方向に変える力を持っている」「いじめを減らす効果が期待できそうだ」といった趣旨の報告が寄せられている。

さらに、幼児期における運動体験は、身体的な発育・発達のみだけでなく、知能の発達(言語発達)にも資するところがあるとの研究報告もされている。(大森, 2003)

以上のような実績・効果などから、マナーキッズ®プロジェクトの趣旨・内容を、テニスだけでなく、スポーツの種目を超え、あるいはスポーツ以外の子ども活動団体などとも連携・協力して広く共有し、全面的に活動展開していきたいというのが、本法人の設立を目指すに至った経緯である。

NPO 法人マナーキッズ®プロジェクトの田中日出男理事長は、設立の目的を次のように述べている。

日本に小笠原流礼法という 600 年以上も続いている礼法があること、スポーツとの連携によってマナーを良くする試みに関心を示している。スポーツ・文化及び社会活動を通し、一人でも多くの幼稚園園児・小学校児童が日本の伝統的な礼法を体験することにより挨拶、礼儀作法の基本的マナーの習得、体力・運動能力及び知的能力の向上をはかり、「体」、「徳」、「知」のバランスのとれた世界に通用する背骨ある人材育成に些かでもお役に立てることができればと念じている。

表 1 認定 NPO 法人マナーキッズ®プロジェクトの経緯

1996 年 12 月	本プロジェクトの原点である、早稲田大学庭球部小学生テニス教室開始
2004 年 7 月	財団法人日本テニス協会マナーキッズテニスプロジェクトの実験開始(東京都中央区、江東区、静岡市の 3 ヶ所)
2005 年 4 月	財団法人日本テニス協会幼稚園・小学校マナーキッズテニスプロジェクト発足
2005 年 12 月	第 1 回マナーキッズテニス全国小学生団体戦開始(第 2 回大会より文部科学大臣杯付与)
2006 年 6 月	第 1 回マナーキッズテニス大使英国・ウインブルドン派遣

2007年6月	NPO法人マナーキッズプロジェクト設立
2009年4月	NPO法人マナーキッズプロジェクトが財団法人日本テニス協会マナーキッズテニスプロジェクトの運営を業務受託
2010年3月	NPO法人マナーキッズプロジェクトは、国税庁より「認定NPO法人」に認定される
2010年4月	財団法人日本テニス協会マナーキッズテニスプロジェクトの主催者は、認定NPO法人マナーキッズプロジェクトに変更

2. 認定NPO法人マナーキッズ®プロジェクト取り組み - マナーキッズ®テニス教室-

当法人は、全国の幼稚園園児・小学校児童に対し、スポーツ・文化及び社会活動を通し、日本の伝統的な礼法を体験させることにより、挨拶、礼儀作法の基本的マナーの習得、体力・運動能力及び知的能力の向上をはかり、「体」、「徳」、「知」のバランスのとれた世界に通用する背骨ある人材育成に寄与することを目的としている。

▼プロジェクトの主な種類は以下のとおりである。

- 子どもの健全育成を図る活動
- 社会教育の推進を図る活動
- 学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動
- 保健、医療又は福祉の増進を図る活動
- 国際協力の活動
- まちづくりの推進を図る活動
- 地域安全活動
- 環境の保全を図る活動
- 人権の擁護又は平和の推進を図る活動
- 前各号に掲げる活動を行う団体の運営又は活動に関する連絡、助言、又は援助の活動

地域社会あるいは国際社会の中で市民として生きていく力を個人レベル（主体性・自立性）、対人関係レベル（自己と他者との関係）、文化・社会レベル（個人と社会の関係）いずれの面においてもきちんと身につけさせるということに取り組んでいる。

プロジェクトの主な事業は以下のとおりである。

▼特定非営利活動に係る事業

- マナーキッズ教室の開催事業
 - (ア) 指導者要請を兼ねたデモンストレーション教室の開催事業
 - (イ) 全国の幼稚園・小学校・総合型地域スポーツクラブ・スポーツ少年団、その他の団体で展開する教室開催の支援事業

マナーキッズに係る出版物発行事業

マナーキッズに係る教育研修事業

マナーキッズに係る研究事業

マナーキッズに係るコンサルティング事業

スポーツ、文化に関連した国際交流、親善に関する事業

地方公共団体及び公的機関が実施するイベント、セミナーの運営等を支援する事業並びに公益性を有する各種スポーツ施設等の管理・運営等を支援する事業

▼その他の事業

前号に係る物品販売等の事業

3. 認定 NPO 法人マナーキッズ®プロジェクトの活動内容

(1) 開催要領・開催事例

マナーキッズ®プロジェクトは、小学校体育と道徳・総合学習の融合授業開催の支援事業を行っている。

小学校体育授業については、開催時間が原則 90 分、開催場所は原則小学校体育館、対象は 1～6 年生である。実施方法は、全学年を対象に実施する、高学年を対象に開催し、高学年が低学年を指導する、特定の学年で開催する、のいずれかである。礼法専門家による指導は最初の 1 回だけで、あとは日常の授業、クラブ活動等において礼儀・挨拶の反復練習を行い体得する。また、第一段階として、クラブ活動、土曜日行事、放課後子どもプランで実施後、体育授業に移行するケースもある。種目は団体スポーツ・個人スポーツ、道具を使うスポーツも取り入れる。

道徳授業については、開催時間が原則 45 分、開催場所は教室或いはホールで行う。テーマは「正しいお辞儀・挨拶の仕方及び食事のマナー」「言葉使いと思いやり」「スポーツと地球環境」「マナーキッズと日本の伝統文化」等である。対象は 1 年生から 6 年生とし、実施方法は講義又はグループ討議方式で学年毎や高学年・低学年毎に行っている。

小学校体育授業の開催事例・スケジュールは以下のとおりである。

表 2 小学校体育授業の開催事例

開講式	姿勢を正しく、相手の目を見ながら元気よく大きな声で自己紹介
鈴木総師範のマナー講座	小笠原流礼法の鈴木万亀子総師範により正しいお辞儀を練習
練習	準備運動をし、大きなこえで挨拶をして練習を開始する
後片付け	みんなで後片づけと雑巾がけ
閉講式	マナーキッズ教室 総仕上げの場
感想文の提出	感想文を書き、マナーやルールの大切さについて一層認識を深める

* 保護者は鈴木総師範による「家庭内の躰」などの講義を聞くことができる。

(2) マナーキッズ®標語・作文・ポスターコンクール

マナーキッズ®プロジェクトでは、子ども達自身がマナーの大切さに気づき、考え、家族のあいだでも話し合うことで、「やりとりの復活」につながることを願い、幼稚園児と小学生を対象に、「マナー」を中心にした標語作文・ポスターコンクールを実施している。

さらにマナーキッズ®プロジェクトでは、文部科学大臣杯マナーキッズ®テニス全国小学生団体戦において、試合結果、マナー、感想文、運動能力、面接他を勘案してマナーキッズ大使を選考し海外に派遣し、1大会8人以内の小学生を「マナーキッズ®テニス大使」として、イギリス・ウィンブルドンに派遣、現地で国際交流活動を行っている。将来的には、テニス以外のスポーツからも選び、海外に派遣しようと考えている。

(3) マナーキッズ®カレンダーの活用について

マナーキッズ®テニス教室を媒介とした体育・道徳融合授業を通じて、子ども達は正しいお辞儀・挨拶の仕方を覚える。しかし、それが持続するかどうかは、家庭、学校でのフォロー如何にかかっている。そこで、家庭及び学校でのフォローの一環としてマナーキッズ®カレンダーを作成し、配布するようになった。保護者及び先生は、子ども達が正しいお辞儀・挨拶他が身につくように本マナーキッズ®カレンダーの活用を推奨している。

▼マナーキッズ®カレンダー利用の仕方

子どもは毎月第一週に次の5項目について「よくできた」場合は赤く、「少しできた」場合は緑に、色鉛筆でぬっていく。「できなかった」場合は、色はぬらない。

約束を守る

人のいやがることはしない

正しいお辞儀・挨拶をする

人の話を聞く時に相手の目をみて聞く

腰骨を立てる

保護者、先生は、月に一度、記載欄にコメントを記載する。

例：「先月よりも姿勢がよくなりました」「相手の目を見て聞くようになりました」と色が変化する度にできるだけ褒めてあげてください。「もっと大きな声でご挨拶できるといいですね」

「授業中も腰骨を意識しましょう」と直すべき点を記載しても良い。

子どもは褒められると素直に受け入れていくので、マナーキッズ®カレンダーを活用することによって、子ども達や大人の方にもマナーに対する意識が高まり、自然と身についていくものと考えられる。

(4) 活動実績

44 都道府県で 651 回開催し、68,000 人を超える幼稚園園児・小学生児童が参加した。
29 都道府県 164 小学校他で授業として、開催されている。

表3 これまでの開催回数・参加人員

種目	回数(回)	参加人数(人)
テニス	576	54,401
訪問指導型・授業	262	35,655
訪問指導型・他	123	5,842
公募型	191	12,904
サッカー・野球・ラグビー他	35	9,666
文化・社会活動	40	4,470
総計	651	68,537

(2011年11月11日現在)

(注) (財)日本テニス協会マナーキッズ®テニスプロジェクトを通算

第三節 マナー問題についての現状

1. 現代の若者によるマナー問題

近年、全国の小学校で「学級崩壊」といった憂慮すべき現象が起こっている。また、中・高校生の電車の中での化粧、路上での地べた座り、社会人になっても挨拶ができない等、マナーの乱れが多く指摘されている。

成人した大学生からは喫煙マナーなども問題視されており、社会人になり働き始めた若者の中でも、社会に出る前には基本的なマナーが身につけているのが当たり前であるが、最近ではそのビジネスマナーができていない。現代の日本社会では、若者を中心に礼儀知らずな人が増えているといわれるほど、マナーが軽視される風潮にある。

ビジネスマナーを身に付けるには、人間としてのマナーがとても重要になる。しかし、現在の若者には、残念なことに社会に出て初めて基本的なマナーを知り驚いたり、あるいは、マナーを知らないということを恥とも思わない人たちが増えたりしている。しかし、仕事をしようとするならば、社会の様々な人の中で、自分をわきまえて行動したり、言葉使いに気をつけたりするのは当然である。

筆者自身、就職活動を通して、言葉使いやビジネスマナーを改めて学び、当たり前だと思っていたことが、そのままマナーとして正しいこともあったが、初めて知ることや敬語の不安定さを実感した。マナーに対しての意識は幼少期の両親や学校の先生などの大人の教えが一番印象に残っている。したがって、幼少期でのマナー教育がとても重要なのでは

ないかと考えた。

2．日常生活の礼儀作法

礼儀作法とは、社会人としてわきまえてしかるべき当然のことを、自然に振る舞うことである。礼儀作法やエチケットマナーというと、堅苦しいという印象があるかもしれないが、礼儀作法とはきまりやルールを守ることだけが、大切なのではない。「人を大切に思う心」が根本にあり、相手を敬うことが最も重要なのである。しかし、お互いに守るべき決まり事や知っておかなくてはならないルールも存在する。正しいマナーには、心の美しさが必要であり、内面からにじみ出る美しさは、人を素敵に見せてくれるものになる。

日本の礼儀作法は、相手のために自分はどのようにしたらよいのか、人を大切に思う「心」を、どのように表現して伝えるかというところから発生したのが礼儀作法であるという。礼儀とは、人を大切に思い、敬意を払う心と、常に相手を気遣う思いやりの心。そのために、自分自身を慎む謙虚な心であります。その礼儀の心を表現（形として）するやり方、方法が作法となる。

その心の表現方法として、基本的な立ち居振る舞いが、長い歴史の中でさまざまな経験を積み重ねた上で、その時代に合わせた改良を加え、築きあげられたものである。しかし残念なことに、「本来の人を大切に思う」日本人の心は失われつつあるのが現代の日本である。そこで長い年月の中で守り続けてこられた一子相伝のお止め流の封印を解かれ、小笠原惣領家三十二世小笠原忠統先生により、本当の小笠原流礼法が世に出された。

3．スポーツマンシップ

マナーはスポーツの中でも重要視されている。開催式でよく言われる「スポーツマンシップにのっとり正々堂々と戦うことを誓います」という文言がある。スポーツマンシップという言葉について、はっきりと意味を理解している人は少ないのではないかと思う。

まずスポーツマンシップという言葉について辞書で調べてみると、小学館・新選国語辞典ではスポーツマンシップを「正々堂々と戦う、運動競技者の精神(1)」とある。次にweb上の辞書、YAHOO辞書、国語辞書では「正々堂々と全力を尽くして競技するスポーツマンとしての態度・精神(2)」と載っていた。ほかにもいろいろな種類の辞書を見てみたが、結果として「正々堂々、明るく、スポーツマンとして、」など、一見良い言葉に見えて、的確にこの言葉を説明している文はなく、それなりの言葉が並ぶばかりであった。

これでは具体的なものはみえてこない。しかし、三省堂・新明解国語辞典だけは「フェアプレーをし、勝負にこだわらない明るい健康な態度・精神(3)」と、他の辞書と違ったニュアンスの言葉を載せていた。他のものは、自分の中で精一杯取り組みについての表現であったが、三省堂では相手との関わりも載せ、スポーツとして欠かせない勝敗についてのことが記載されていた。

筆者も中学生の頃から約10年テニスをやっていて、大会など公式の試合になるとどうしても勝ち負けにこだわってしまっていた。試合に向けて多くの練習を積み重ねて試合で勝

てたときはもちろん嬉しく達成感があった。しかし、試合に負けても、自分の実力を十分に発揮し、正々堂々と戦って達成感を感じ、自分よりも相手の実力が上だと認め、尊敬する気持ちも感じられた。さらに試合の中でボールを渡すときに「ボールお願いします」「ボール送ります」「ありがとうございます」と言葉かけをすることによって、少しではあるが相手とのコミュニケーションもとることができ、試合後のあいさつでは気持ち良く笑顔で交わすことができたこともあった。

特にスポーツマンシップを意識しての行動ではないが、この時の自分はスポーツマンらしく行動できていたのだろうと思う。相手と気持ちよく握手を交わすことができ、そこから一緒に練習をするようになったこともあった。このようにマナーやルールを守り、明るく正々堂々で行うことで、スポーツを通じて仲間も増えとても良い人づきあいができるようになると感じた。

これら筆者の経験から実感したことは、2008年度のマナーキッズ®テニス大使事前研修「武士道とフェアプレーの共通点」に記載されている「礼」についての内容とも共通していた。

▼武士道とフェアプレーの共通点

テニスの初めと終わりに礼をするときには、ただ頭を下げるだけでなく、心をこめて礼をしないと礼とはいわないということ。

他人の気持ちに対する思いやりを目に見える形で表現すること。

思いやりの心をもつこと。相手を思いやり敬う気持ちをもつこと。

自分のこと（損得）ばかりを考えるのではなく、他人を気づかう気持ちが大切である。

試合では礼で始まり、礼で終わる。人と人の関係を大切にすること。

自分に厳しく、他人に優しく、礼儀正しい人間。感謝の気持ちを忘れないこと。

技術だけでなく、日々精神や心をみがくことが大切である。

このことからスポーツマンシップとは、第一に気持ちの持ち方が重要であり、それを行動で表して、競技を行うということだと考えることができる。

4. 小学校のマナー教育

マナー教育に力を入れている学校は、学力も向上している。その報告として、品川区立浜川小学校の成果報告がある。「マナーキッズ®テニス教室」を契機に生活習慣、学習習慣の是正に真剣に取り組み、その成果が記されている。（矢田：2011）

品川区立浜川小学校では、特に学習規律、生活規律において、一貫校である浜川中学校と義務教育の9年間を通した指導計画を作成し、児童・生徒に定着させるように全教師が一丸となって取り組んでいる。生活規律の一つとして、あいさつ奨励し、全児童を対象にしたあいさつ当番やあいさつ名人の選出、各学年の発達段階に合った朝の時間でのあいさ

つ指導を徹底している。その結果、保護者や外部評価でのアンケートでも、「大きな声で適切なあいさつをすることができる。」という項目の数値が大きく上がっている。

学力向上の基盤として取り組んでいる学習・生活規律づくりだが、品川区立浜川小学校で実施しているCRT（学力定着度調査）では、平成21年度と平成22年度のものを比較すると、平成21年度に実施していない1年生を除いた全学年で大きく向上していた。

また、中学年以上の児童を対象に実施したアンケート調査の結果を分析したところ、学習規律や生活規律が定着していたり意識していたりしている児童は、そうでない児童よりも学力が向上していることがわかった。

品川区立浜川小学校では市民科学習の時間としてマナーキッズ・プログラムを2009年から実施し、今年度で3回目である。主に2.3.4年生の児童を対象にあいさつやマナーの大切さを子ども達に価値付ける体験学習として位置付けている。

「マナーキッズ®テニス教室」について、矢田校長は次のように述べている。

マナーキッズは、年に一回です。この一回だけでマナーを身に付けることはできません。しかし、この一回の学習が子ども達にとって、相手に対する思いやりやお礼の心、あいさつを日常生活で実践していく強い動機付けとなっています。

本校では、全校朝会や児童集会はもちろん、授業の最初と最後のあいさつでも、言葉を言ってから頭を下げてあいさつするという、マナーキッズで学んだ礼法を様々な場面で実践し定着を図っています。

今後も、このマナーキッズの学習を活用し、教職員と児童、保護者が力を合わせ、生活規律や学習規律を徹底させ、学力の向上に向かって前進していきたいと考えています。

第三章 「マナーキッズ®テニス教室」を行った学校の現状と課題

第一節 研究目的・研究方法

1. 研究目的

本研究では、「マナーキッズ®テニス教室」を実施した学校の教師を対象にフォロー要領に基づいて作成した質問紙調査を実施し、「マナーキッズ®テニス教室」実施後の学校側のフォローの現状と今後の課題について検討することを目的とする。

2. 研究方法

(1) 調査対象

調査対象は、今年度「マナーキッズ®テニス教室」を実施した内の全国の小学校 24 校の教師 93 名とした。内訳は、品川区の小学校 10 校の教師 35 名、品川区外の小学校 14 校の教師 58 名である。

表4 年齢と性別(人)

	20代	30代	40代	50代	未回答	合計
男性	7	18	5	5	2	37
女性	10	14	9	18	5	56
合計	17	32	14	23	7	93

表5 品川区内と品川区外(人)

	20代	30代	40代	50代	未回答	合計
品川区内	13	15	4	2	1	35
品川区外	4	17	10	21	6	58
合計	17	32	14	23	7	93

表6 担当学年(人)

	1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	6学年	校長	副校長	その他
人数	7	6	10	25	23	10	1	2	9

(2) 調査方法

2011年10月28日から11月12日の16日間に、各小学校へ質問紙を送付し、郵送してもらい回収した。

(3) 調査項目

記入者について。年齢、性別、担当学年

「お辞儀・あいさつ」の講座の全校児童の実施の有無

マナーキッズ®テニス教室を受けた児童の人数

マナーキッズ®テニス教室に対する評価について

- ・児童の本教室への意欲
- ・児童の集中度
- ・本教室の満足度
- ・教室実施中の子ども達の表情
- ・子ども達の声

マナーキッズ®テニス教室受講後の児童の様子

- ・他人との関わり
- ・あいさつの積極性
- ・授業中の態度
- ・目を見てあいさつ
- ・人の話を聞く時の態度

実施後の子ども達の変化の継続期間

マナーキッズ®テニス教室実施後のフォローについて

<教師の指導状況について>

- ・朝、校門でのあいさつ
- ・授業開始時と終了時のあいさつ
- ・家庭や地域においてのあいさつ

<子どもの様子>

- ・朝、校門でのあいさつ
- ・朝礼開始時のあいさつ
- ・体育座りの注意点
- ・授業開始時のあいさつ
- ・授業中の集中度
- ・授業終了時のあいさつ
- ・来客者へのあいさつ

マナーキッズ®テニス教室の普及について

マナーキッズ®カレンダーの活用状況

マナーキッズ®コンクールへの参加

マナーキッズ®テニス教室を受けていない学年への受講希望

子どもにマナーを身に付けさせるための取り組み

その他の意見

選択肢と自由回答を組み合わせた回答形式である。複数回答や自由記述欄、5段階尺度で測定した。

(4) 統計解析

統計解析は、統計ソフト（IBM-SPSS Statistics19）を使用し、それぞれのスコアの関係は記述統計分析及び、t検定により検討した。また有意水準はすべて5%以下とした。

第二節 結果と考察

1. マナーキッズ®テニス教室に対する教師の評価

マナーキッズ®テニス教室に対する教師の評価（5点満点）は全体的に高く、「子ども達は意欲的に教室に参加していた」が4.51ポイント、「教室実施中、子ども達の笑顔があった」が4.29ポイント、「子ども達は集中して取り組んでいた」が4.27ポイントであった。

このことから、子ども達が、とても意欲的に、笑顔をもって、集中してマナーキッズ®テニス教室に取り組んでいたことがうかがえ、全体としても満足のいくものだったと評価している。

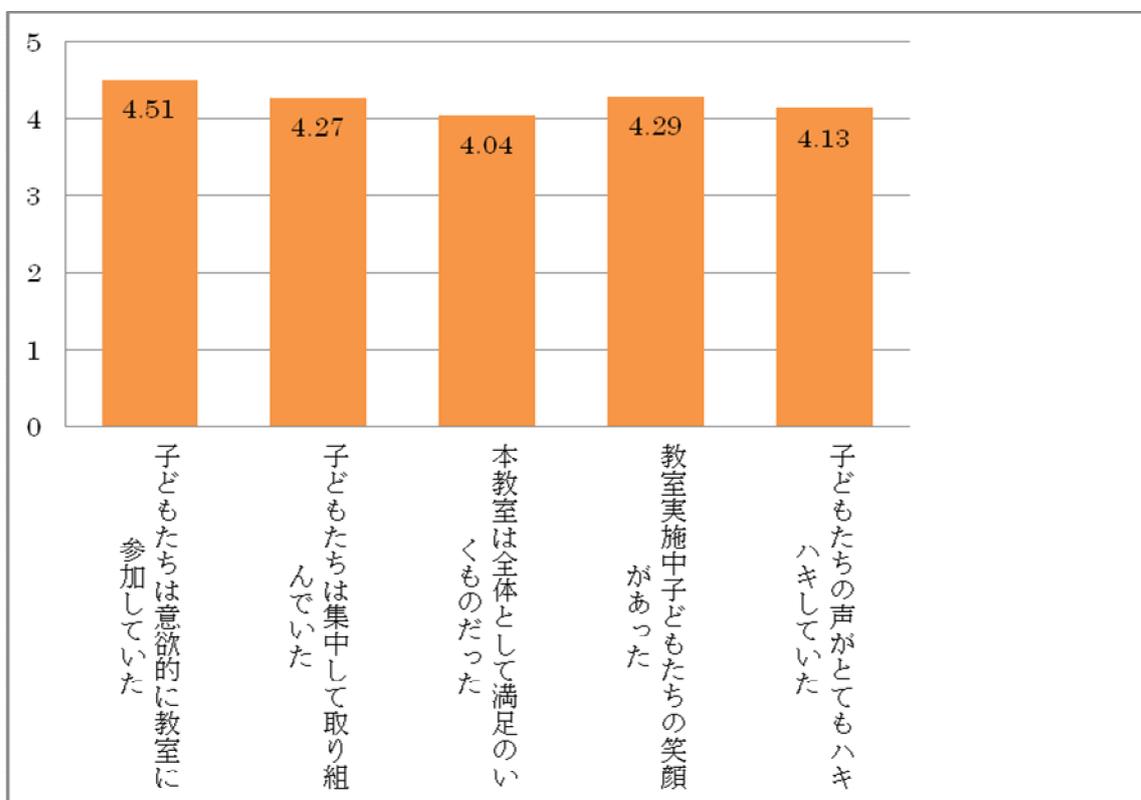


図1 マナーキッズ®テニス教室に対する評価

2. マナーキッズ®テニス教室受講後の児童の様子

マナーキッズ®テニス教室受講後の児童の様子については、「子ども達が積極的にあいさつをするようになった」が 3.55 ポイント、「相手の目を見てあいさつができる子どもが増えた」が 3.45 ポイント、「相手の目を見てあいさつができる子どもが増えた」が 3.34 ポイント、「授業においても子ども達の態度がよくなった」が 3.3 ポイント、「本教室後、自ら他人と接する子どもが増えた」が 3.27 ポイントであった。

このことから、マナーキッズ®テニス教室受講後、子ども達が、積極的に相手の目をみてあいさつができるようになったと教師が評価していた。しかし、前設問のマナーキッズ®テニス教室に対する教師の評価と比較すると、必ずしも高い数値ではなく、本教室で学んだことと授業などでの態度の繋がりについて、子ども達にはあまり理解されていないように思われる。

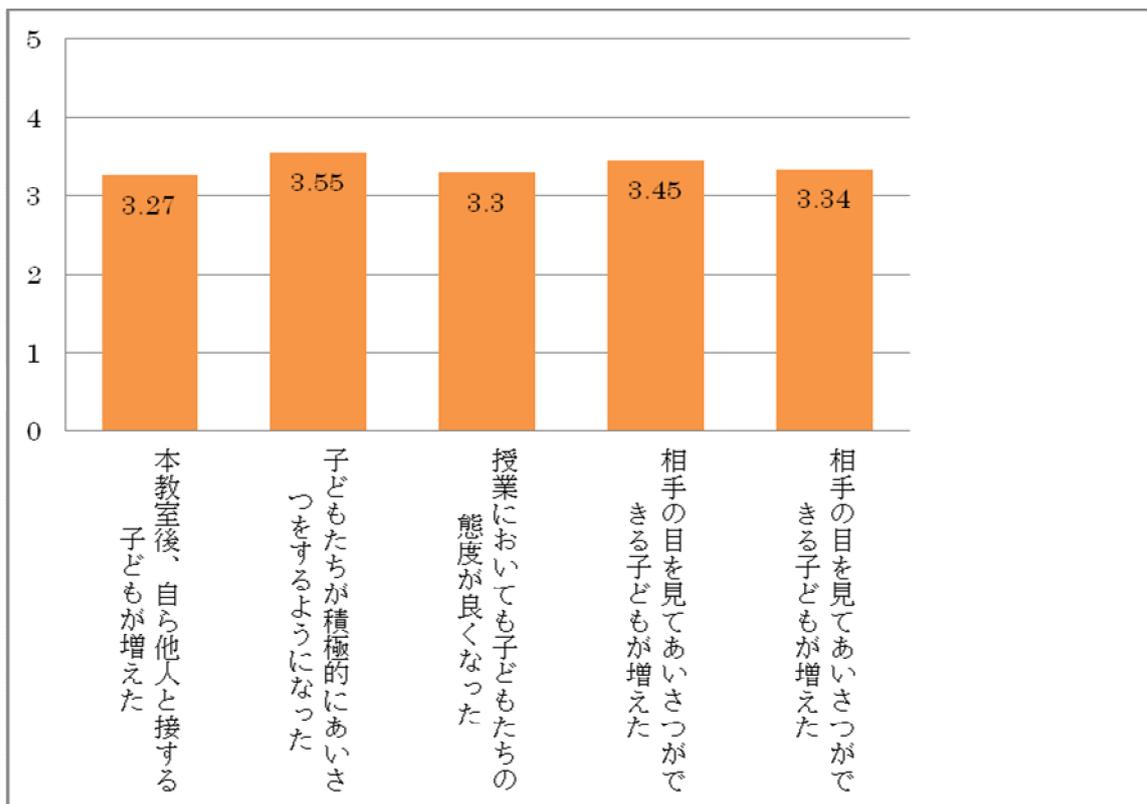


図2 マナーキッズ®テニス教室受講後の児童の様子

3. 本教室受講後の児童の変化の継続

「本教室受講後の児童の変化がいつまで継続していますか」の質問に対して、「1週間」が35%、「1ヶ月」が19%、「2ヶ月」が3%、「3ヶ月」が1%、「ずっと続いている」が25%、「無回答」が17%であった。

児童の変化の継続は、効果が1週間で終わってしまうという回答が多い半面、ずっと続いているとの回答も多く、両極端な結果となった。これは、開催時期に差があるため、継続期間に影響が表れてしまったと思われる。

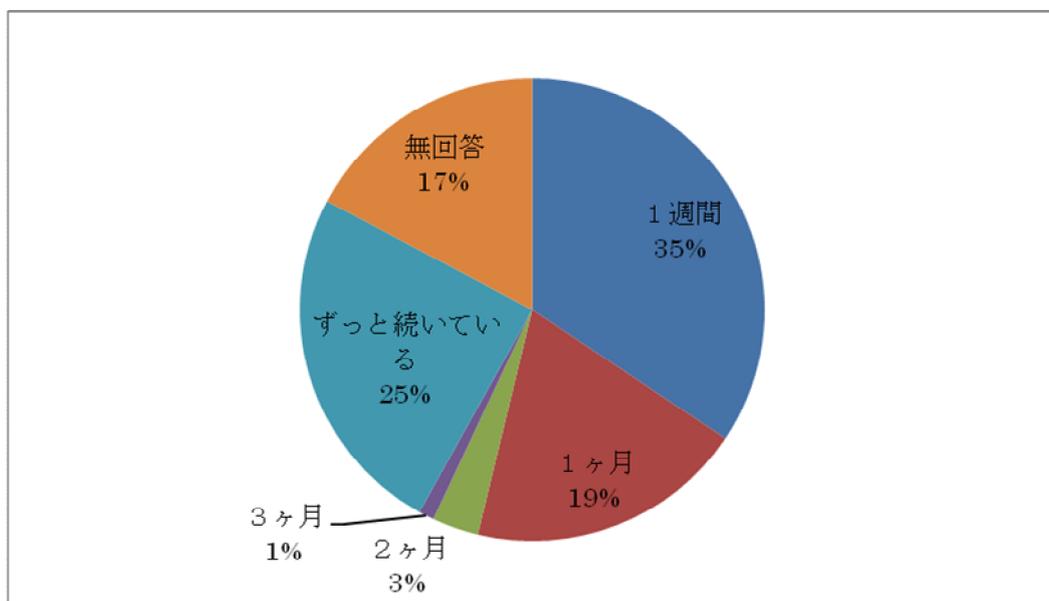


図3 本教室受講後の児童の変化の継続について

4. 本教室実施後のフォローについて

本教室実施後のフォローについて、グラフの左の3項目が「教師の指導状況」であり、他の8項目が「受講後の児童の様子」である。

< 教師の指導状況 >

「授業開始・終了時のあいさつ指導」が4.65ポイント、「家庭や地域における指導」が4.42ポイント、「朝、校門に立ってあいさつする」が3.54ポイントであった。

授業時のあいさつ指導、家庭や地域における指導は4ポイントを超えていることから、ほとんどの教師があいさつの指導を行っていることがわかる。また、児童の多い学校では困難だという意見があった。

< 本教室受講後の児童の様子 >

「朝礼開始時のあいさつ」が 4.51 ポイント、「体育座りの姿勢」3.96 ポイント、「授業中の集中力」が 3.84 ポイントであった。ほとんどの児童が、朝礼など大人数が集まる場では実施していることがわかった。起立の姿勢だけでなく、体育座りの体勢でもきちんとした姿勢でいることができることがうかがえる。

「授業開始時のあいさつ」「授業終了時のあいさつ」が 3.52 ポイント、「朝のあいさつ」が 3.3 ポイントであった。これらの項目は、もっと高い数字がでるものと予測していたが、平均を少し上回るくらいの数値になった。

「来客者へのあいさつ」が 2.91 ポイント、「授業開始時に起立」が 1.37 ポイントであった。来客者へのあいさつは、子どもの人見知りがあること、来客者と児童が合う場面が少なく、その時の児童の様子をみることがないため「たまに実施」という意見が多くなったのではないだろうか。授業開始時に起立は、授業の開始形式が各学校で違うため、起立をする決まりや習慣をつくっていない学校が多く、このような結果になったのではないかと考えられる。

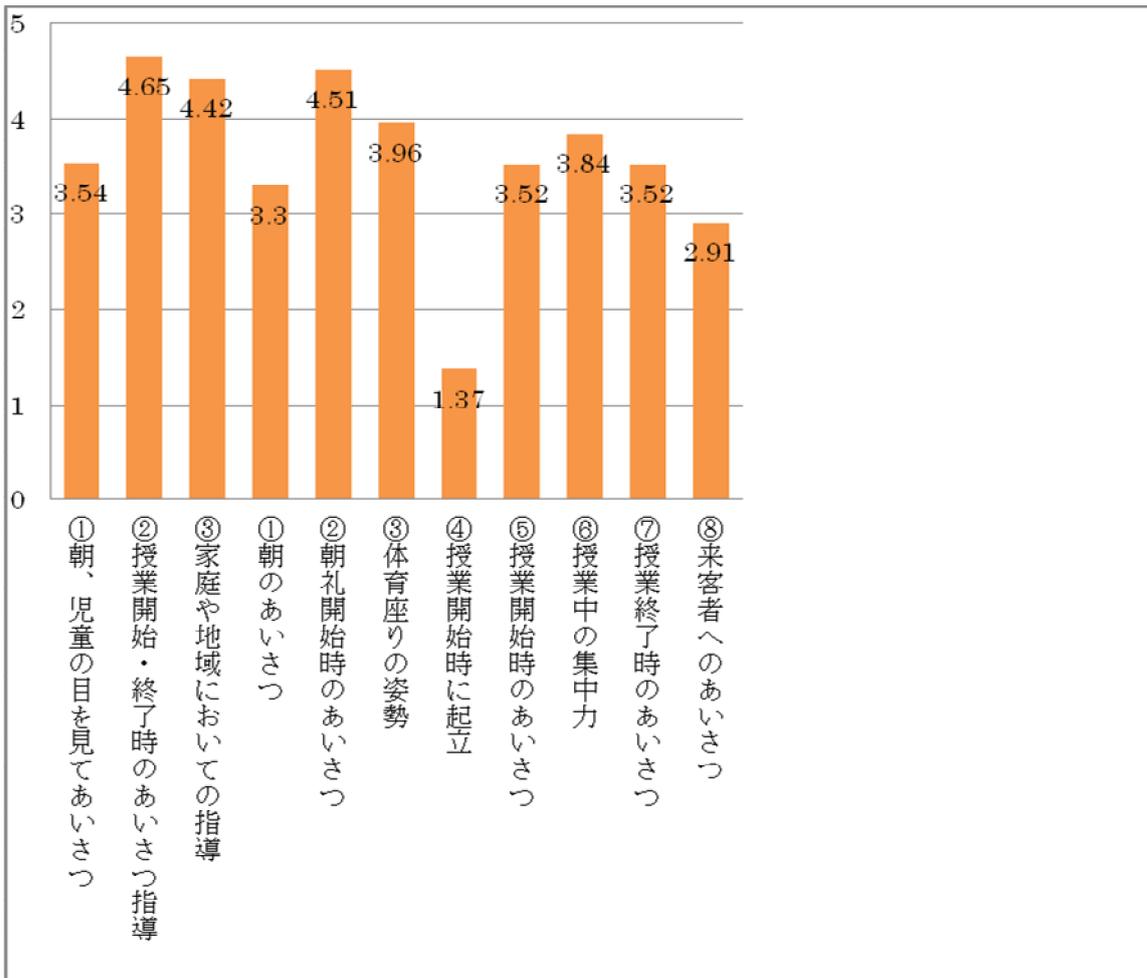


図4 本教室実施後のフォローについて<教師の指導状況><児童の様子>

6. マナーキッズ®テニスの普及について取り組んでみたいこと

「マナーキッズ®テニスの普及について取り組んでみたいこと」の質問に対しては、「クラブ活動（4年生以上）にショートテニス部を加えたい」が26%と最も多く、「文部科学大臣杯マナーキッズ®テニス全国小学生団体戦に出場してみたい」が7%、「マナーキッズ®テニス同好会（全学年）を結成し、週1回程度の練習機会を持ちたい」が1%であった。

しかし、「特に取り組みたいものはない」が66%と、マナーキッズ®テニスの普及についてあまり意欲的でないことがうかがえた。取り組む際に新たな制度をつくらなければならないことや、経済面や時間や場所の確保など、様々な問題があるため、取り組みたいという意見が多く出てこなかったのではないだろうか。そのことから、今行っているクラブ活動として「ショートテニス部」を加えることが、一番取り組みやすいものとして選ばれたのではないだろうか。

その中でも、団体戦に出場してみたいという意見も少数ではあるが、意欲がある教師もいるので、取り組みやすいものから実行し、キッズテニスが普及していくことができればと思う。

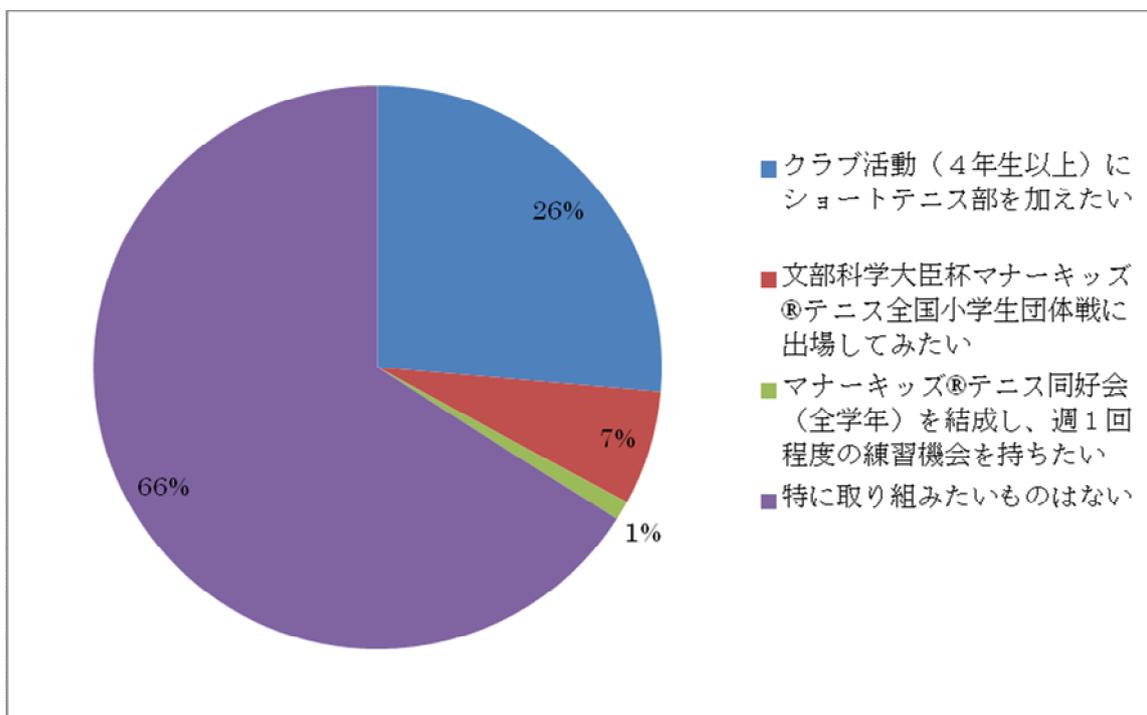


図6 マナーキッズ®テニスの普及について取り組んでみたいこと

7. マナーキッズ®カレンダーの活用について

マナーキッズ®カレンダーの活用については、「教師はルール通り活用している」が10%、「生徒はルール通り活用している」が8%、「保護者はルール通り活用している」が0%であった。一方、「活用していない」が49%、「あまり活用していない（途中で脱落、保護者・教師の記載がない等）」が15%、「その他」が18%であった。

その他の意見では、「カレンダーの存在を知らない」という意見が多く、ほかに「希望者が行っている」「今、活用方法を綿密に相談しています」「これから活用予定」「家庭に配布しました」という意見があった。

マナーキッズ®カレンダーの活用については、活用していないクラスが多く、活用しているのは一部の教師と生徒にすぎなかった。さらに、保護者が行っているという意見はなかった。教師が回答したため、家庭での活用の状況が把握されていない可能性が考えられるが、この結果から、学校と家庭との連携の希薄さを暗に示しているともいえる。まずは、マナーキッズ®カレンダーの存在を知ってもらうことから始めるべきであると思われる。

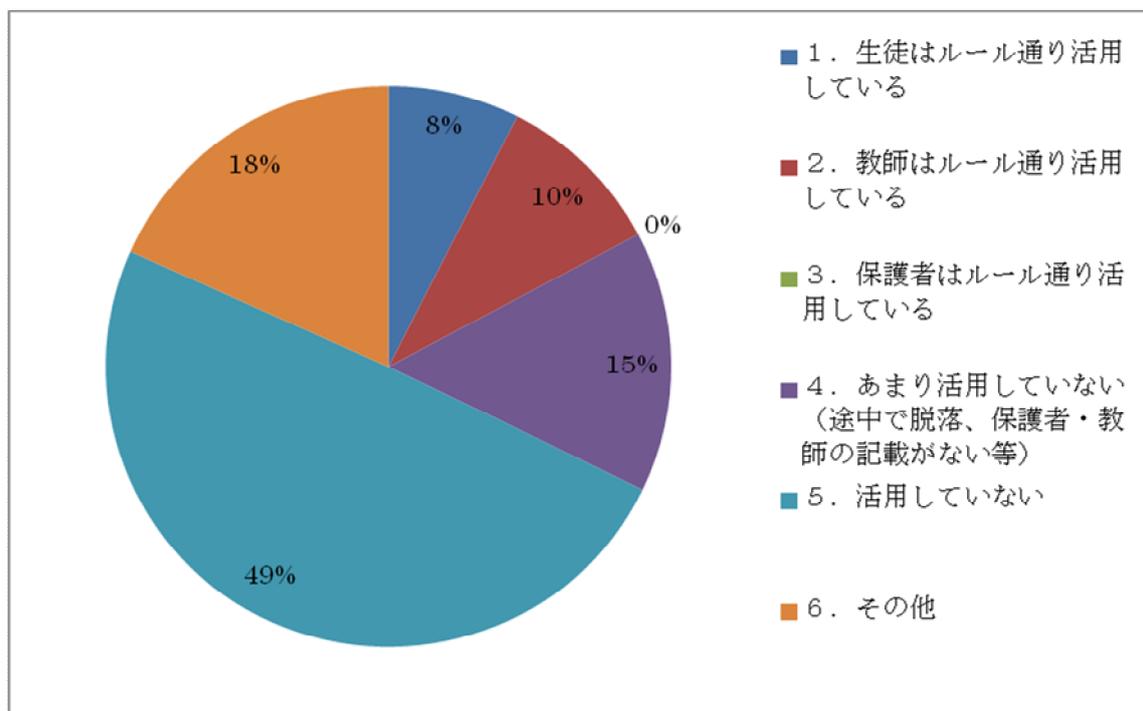


図7 マナーキッズ®カレンダーの活用について

8. コンクールの参加について

「平成22年度のコンクールに参加しましたか」の質問では、「はい」が10%、「いいえ」が90%であった。また、「平成23年度のコンクールに参加する予定はありますか」の質問では、「はい」が8%、「いいえ」が92%であった。

コンクールに参加した学校は少ないことがわかった。平成23年度のコンクールに参加する予定があると答えた人は、平成22年度のコンクールに参加している学校がほとんどだった。初めて参加するには、学校側の指導案や年間計画に組み込むなどの準備が必要になると思われ、なかなか取り組めない現状があるためか、マナー教育については意欲的ではないということが考えられる。さらにコンクールに対する認知度も重要になってくると思われる。

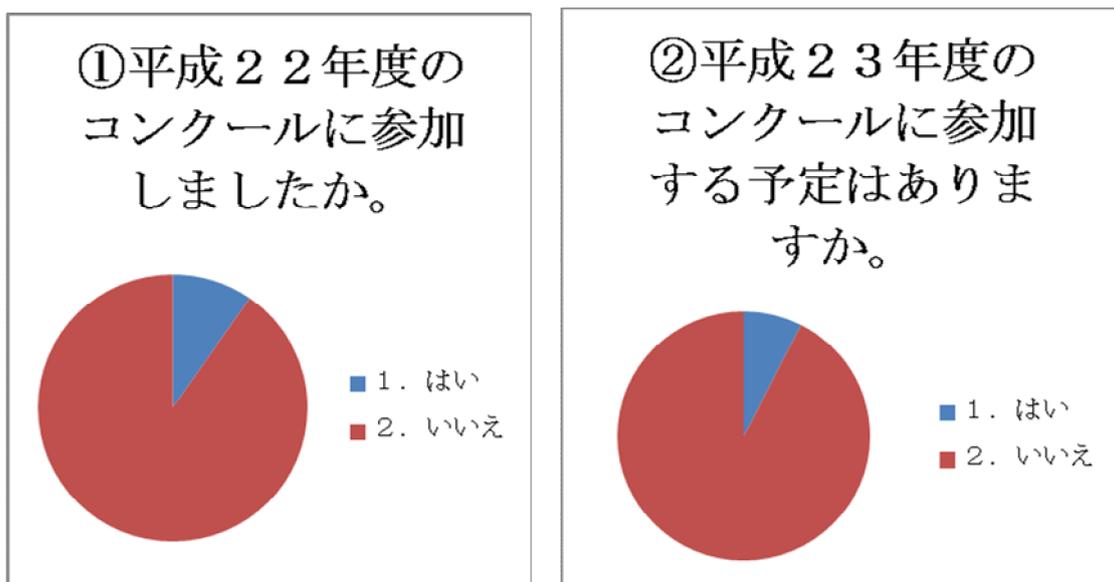


図8 コンクールの参加について

9. マナーキッズ®テニス教室の実施について

新1年生対象の実施

「新1年生を対象に高学年がマナーキッズ®テニス教室を指導する、あるいは新1年生対象に今回と同様のマナーキッズ®テニス教室を開催したいとお考えですか。」の質問では、「とても思う」14%、「まあまあ思う」0%、「どちらともいえない」14%、「あまり思わない」43%、「まったく思わない」29%であった。「あまり思わない」「まったく思わない」が合わせて72%であり、「思わない」が7割と多かった。

受講していない学年対象の実施

「次年度以降、実施していない学年を対象にマナーキッズ®テニ教室を実施したいとお考えですか。」の質問では、「とても思う」7%、「まあまあ思う」25%、「どちらともいえない」49%、「あまり思わない」13%、「まったく思わない」6%であった。「とても思う」「まあまあ思う」が合わせて32%であり、約3割が実施したいと答えていた。

では、全学年で実施している学校の教師が答えている。「思わない」が7割を超えているため、新1年生にはあまり実施したいという考えは少ないことがわかった。実際、本教室を実施している学年は高学年が比較的多かったことから低学年に実施することは、あまり考えられていないことがうかがえる。

は全学年実施していない学校の教師が答えている。「実施したい」という意見の方が、「実施したいと思わない」より、13%多かった。「どちらともいえない」が49%あり、まだ検討段階という考えがうかがえる。

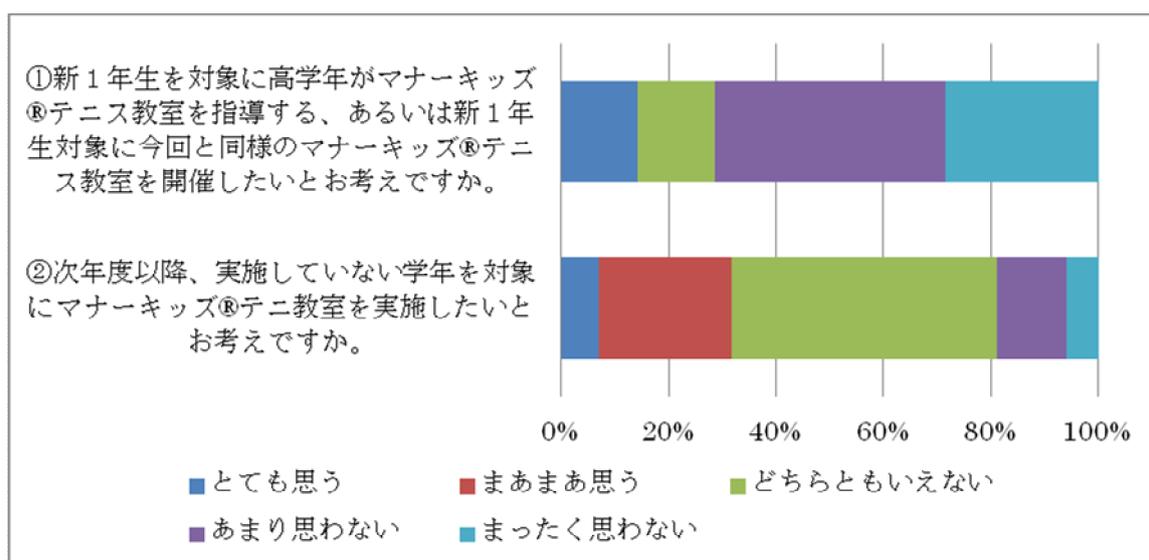


図9 マナーキッズ®テニス教室の実施について

第三節 品川区内と品川区外の取り組みについての比較

1. 品川区内と品川区外の比較についての目的

品川区は教育委員会主導型で行っているため、マナー教育について各学校は比較的受け身の立場で行っている。品川区外の学校は、校長先生の依頼などで行っており、各学校が自発的に取り組んでいる。このため品川区内では、受け身で行っているため、フォローや子ども達の変化があまり見られないのではないかと推測し、今回、品川区内と品川区外で比較し調査した。

2. マナーキッズ®テニス教室に対する評価について

マナーキッズ®テニス教室に対する評価に関しては、全体的に品川区の評価が高く、「本教室の満足度」という項目に有意差（ $p < .05$ ）がみられた。

その理由として、都会でのマナー教育の場が少ないので、本教室を開催することができたことで満足度が高いということが考えられる。

表7 マナーキッズ®テニス教室に対する評価

	品川区内 N = 34		品川区外 N = 52		P
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	
子ども達の意欲	4.57	.608	4.47	.537	
子ども達の集中力	4.34	.725	4.22	.594	
本教室の満足度	4.26	.741	3.91	.823	*
子ども達の笑顔	4.40	.651	4.22	.727	
子ども達の声	4.29	.789	4.03	.700	

* : $p < .05$, ** : $p < .01$, *** : $p < .001$,

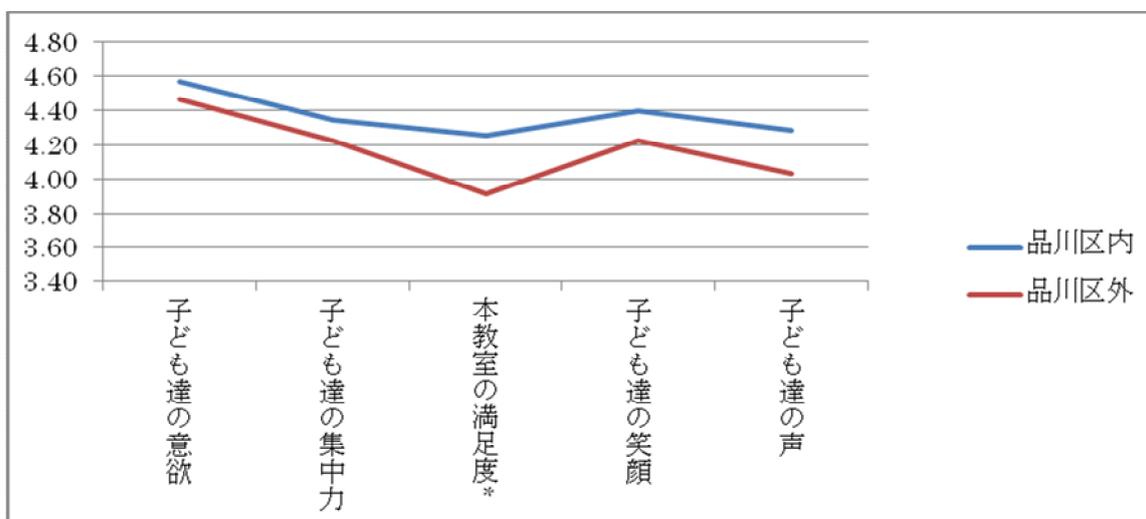


図10 マナーキッズ®テニス教室に対する評価

3. マナーキッズ®テニス教室受講後の児童の様子

本教室受講後の児童の様子に関して、すべての項目において品川区内の平均値のほうが高かった。なかでも「他人との関わり」($p < .001$) 「あいさつの積極性」($p < .01$) 「授業中の態度」($p < .05$) 「目を見てあいさつ」($p < .01$) 「話を聞くときの姿勢」($p < .001$) のすべての項目で、有意差がみられた。

その理由として、品川区内では、回答者に若い教員が多いため、これまで厳しくあいさつ指導をしていなかったが、本教室を行ったことで、変化が表れたのではないかと考えられる。また、品川区外は回答者にベテランの教員が多く、マナーについて厳しく指導が行われていたため、品川区内より変化があまりみられなかったのではないかと推測する。

表 8 本教室受講後の児童の様子

	品川区内 N = 34		品川区外 N = 52		P
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	
他人との関わり	3.60	.604	3.07	.558	***
あいさつの積極性	3.89	.796	3.34	.690	**
授業中の態度	3.51	.658	3.17	.679	*
目を見てあいさつ	3.74	.741	3.28	.615	**
話を聞くときの姿勢	3.69	.718	3.14	.661	***

* : $p < .05$, ** : $p < .01$, *** : $p < .001$,

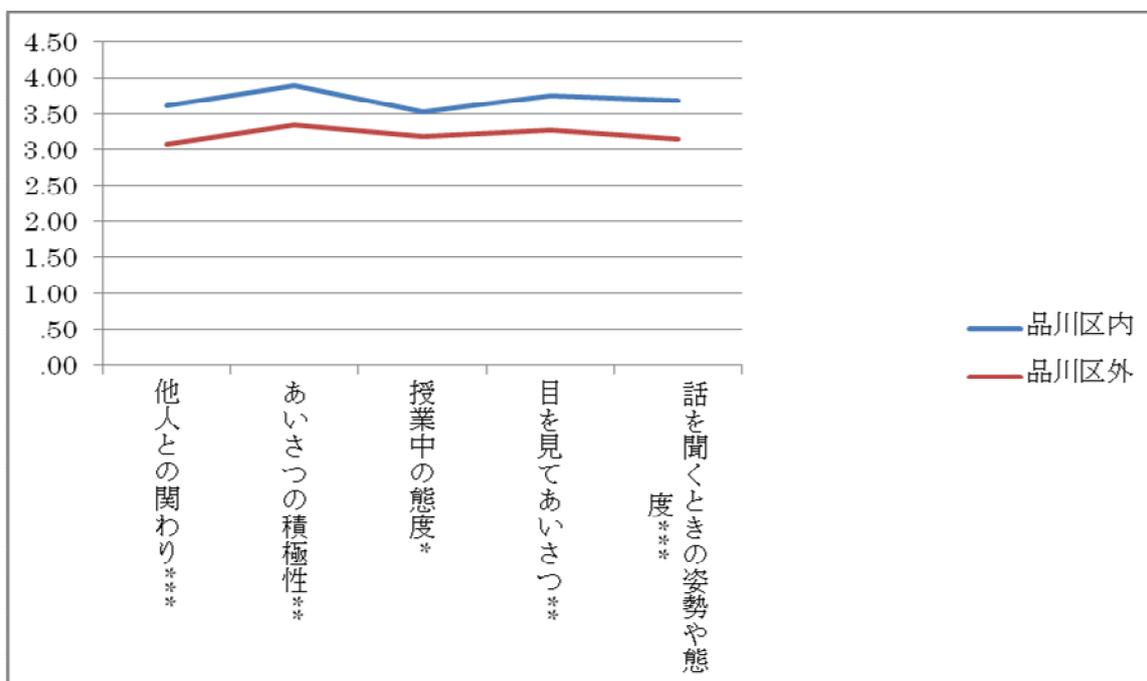


図 1 1 本教室受講後の児童の様子

4. 教師の指導状況

教師の指導状況に関しては、すべての項目において品川区内の平均値のほうが高かった。「朝、児童の目を見てあいさつ」($p < .001$) 「授業開始・終了時のあいさつ指導」($p < .05$) 「家庭や地域における指導」($p < .05$) のすべての項目で有意差がみられた。特に、「朝、児童の目を見てあいさつ」という項目の平均値は、品川区内在が 4.34 ポイント、品川区外が 3.05 ポイントで、その差は 1.29 ポイントだった。

その理由として、品川区内の教師は比較的若い方が多く、本教室で教師自身があいさつの大切さを改めて学び、マナーについて意識が高まったのではないかと考えられる。

表9 本教室実施後の教師の指導状況

	品川区内 N = 34		品川区外 N = 52		P
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	
朝、児童の目を見てあいさつ	4.34	.873	3.05	1.583	***
授業開始・終了時のあいさつ指導	4.60	1.006	3.84	1.609	*
家庭や地域における指導	4.66	.539	4.28	.914	*

* : $p < .05$, ** : $p < .01$, *** : $p < .001$,

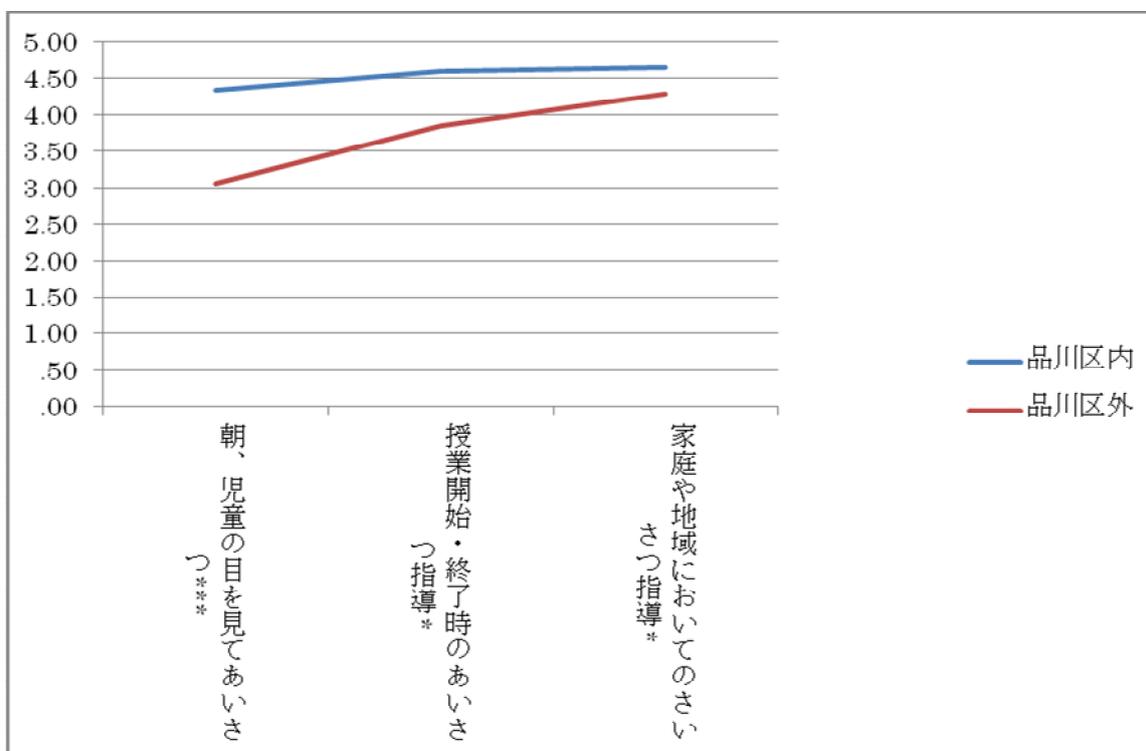


図1.2 本教室実施後の教師の指導状況

5. 児童の様子

本教室受講後の児童の様子に関して、全項目中、「朝のあいさつ」($p < .01$) 「朝礼開始時のあいさつ」($p < .01$) 「授業開始時のあいさつ」($p < .001$) 「授業終了時のあいさつ」($p < .001$) の4項目で品川区と品川区外で有意差がみられた。「授業開始・終了時のあいさつ」は品川区外の教師はあまり実施していないことがわかる。

品川区内は団体行動でのあいさつがきちんと行われているように思われる。また、表9の結果から品川区内の教師の意識が高まったと出ていたので、教師の働きかけにより児童の授業開始・終了時のあいさつもきちんと行うようになったのではないかと考えられる。

表10 本教室受講後の児童の様子

	品川区内 N = 34		品川区外 N = 52		P
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	
朝のあいさつ	3.77	.731	3.05	1.276	**
朝礼開始時のあいさつ	4.77	.490	4.34	.965	**
体育座りの姿勢	4.14	.648	3.78	1.140	
授業開始時に起立	1.60	.914	1.22	.817	
授業開始時のあいさつ	4.54	.657	2.90	1.784	***
授業中の集中力	3.83	.822	3.84	.914	
授業終了時のあいさつ	4.63	.646	2.84	1.755	***
来客者へのあいさつ	3.09	.951	2.81	1.115	

* : $p < .05$, ** : $p < .01$, *** : $p < .001$,

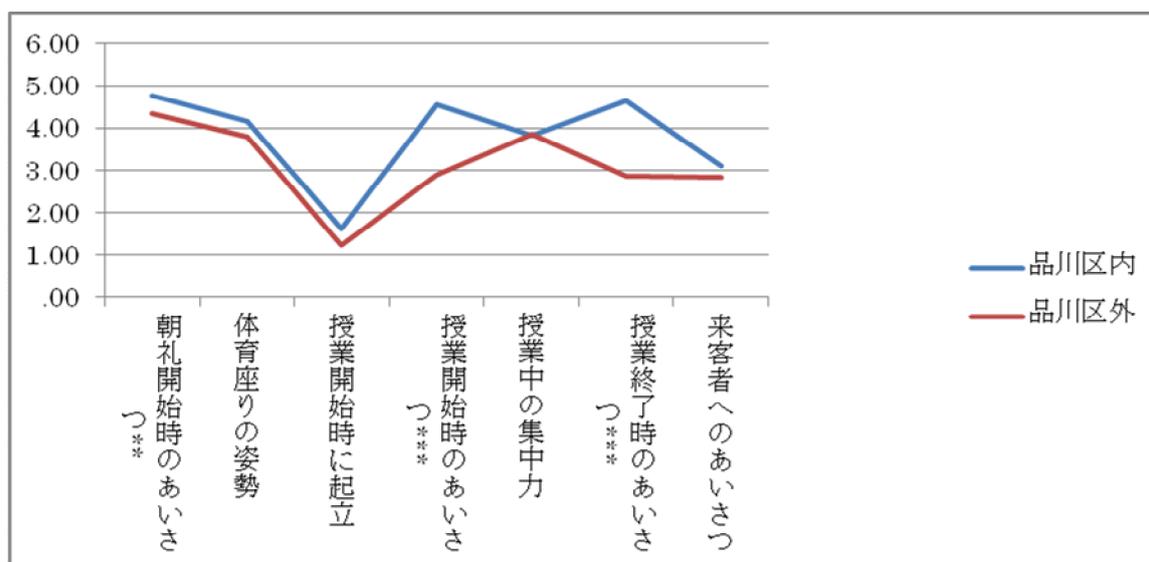


図13 本教室受講後の児童の様子

第四章 結論

本研究では、マナーキッズ®プロジェクトの取り組み、マナーキッズ®テニス教室の歴史を調べ、質問紙調査を用いて「マナーキッズ®テニス教室」の現状と課題について、研究を進めてきた。

その結果、以下のことが明らかとなった。

- (1) 認定 NPO 法人マナーキッズ®プロジェクトでは、現代のマナー教育にきっかけを与えるため、テニス以外の種目でもマナー教室を実施し、コンクールやカレンダーなど様々な事業を展開している。
- (2) マナーキッズ®テニス教室に対する教員の評価は高く、子ども達も意欲的に、笑顔で集中力を持って取り組み、満足度も高かった。しかし、教室受講後、児童に変化が見られたのは、1週間という回答が多く、効果がみられたのは本教室を実施したときのみで、その後、効果があまり続いていることが明らかになった。
- (3) マナーキッズ®テニスの普及について、教師はあまり意欲的でないことがうかがえた。その理由として、取り組む際に新たに指導計画に組み込むこと、時間や場所の確保など、様々な問題があるため、取り組みたいという意見が多く出てこなかったものと考えられる。
- (4) マナーキッズ®カレンダーについて、活用しているのは一部の教師と生徒にすぎなかった。さらに、保護者が行っているという意見はなかった。教師が回答したため、家庭での活用の状況が把握されていない可能性が考えられる。この結果から、学校と家庭との連携の希薄さを暗に示しているともいえる。まずは、マナーキッズ®カレンダーの存在を知ってもらうことから始めるべきであると思われる。
- (5) マナーキッズ®テニス教室の取り組みについて、品川区内と品川区外とを比較すると、品川区内のほうが品川区外より、本教室への評価が高かった。その理由として、品川区内では、回答者に若い教員が多いため、これまで厳しくあいさつ指導をしていなかったが、本教室を行ったことで、変化が表れたのではないかと考えられる。また、品川区外は回答者にベテラン教員が多く、マナーについて厳しく指導が行われているため、品川区外より変化があまりみられなかったのではないかと推測する。

これらの結果から、マナーに関して子ども達の変化はみられたものの、子ども達の変化の継続期間が比較的短かったことから、本教室がきっかけにすぎなかったと思われる。マナーを定着させるためには、学校側の教師一人ひとりの指導や取り組み、心がけなどフォローがさらに重要になってくるのではないだろうか。

小学校のマナー教育で述べたように、品川区立浜川小学校の成果報告（矢田：2011）では、本教室を契機に生活習慣、学習習慣の是正に真剣に取り組む、その成果が出ていることを報告している。このことからさらに学校、教師が真に「子どものマナーを良くしようと考えている」かどうか、校長・管理職、一般教師対象にした「生徒のマナーを良くする

ための教育体系」の整備、実施が不可欠となっていることがわかる。

現在、道徳や市民科の授業などで、マナー教育に力を入れ、良い成果を出している学校もある。これらを参考にするなど、各学校お互いに良いところを学び、実施して欲しい。さらに、あいさつの習慣化は学校だけでなく、家庭でのしつけが基本になるという意見もあった。このことから学校だけでなく、地域や家庭にも声をかけ、お互い協力していくことで、学校側にかかる負担も減り、社会でマナー教育をしていけるのではないだろうか。

実際にマナーキッズテニス教室を見学し、社会の第一線で働いてこられたシニアの方々がボランティアとして、小学生にテニスを通じてお辞儀・挨拶を指導している姿を見て、今の状態を何とかしなければという熱い思いに感銘を受けた。

このプロジェクトが企業の寄付、プロジェクトの正会員・賛助会員の年会費、そして一般の方々からの寄付によって運営されているというのは、世の中間違いなくマナーが悪くなっている、「どうにかしないといけない」という考えの方々が多いため、この運動が賛同を得て、運営されていっているのだと思えてならない。

田中理事長の「本当だったら、マナーキッズ®プロジェクトなんかない社会が良いのです。本来、マナーというのは、各家庭で親が躾、学校、社会で育てていくものだと思います。これを、他人に委託しなければいけない世の中というのは、とてもさみしい。」という言葉が印象に残った。

謝辞

この研究を卒業論文として形にすることが出来たのは、担当して頂いた渡辺剛先生の熱心なご指導や、認定 NPO 法人マナーキッズ®プロジェクトの田中理事長をはじめ関係者の方々のご協力、全国の小学校の先生方が貴重な時間を割いてアンケート調査に協力してくださったおかげです。協力していただいた皆様へ心から感謝の気持ちと御礼を申し上げます。謝辞にかえさせていただきます。

参考文献（著者五十音順）

ANA WORLD AIR CURRENT （2011/11/2 閲覧）

<http://www.j-wave.co.jp/original/worldaircurrent/lounge/back/010616/index.html>

おしゃれマナー教室 「礼儀作法について」(2011/10/29 閲覧)

www.oshare-manner-koubou.jp/contents/index.html

品川区立浜川小学校 校長 矢田雅久 (2011)「規律正しい児童は学力も大きく向上する」

篠原梢 (2005)「マナーキッズ®テニス教室の評価と今後の課題」

ジャパン・スポーツ・マーケティング (2011/11/2 閲覧)

<http://jsm.jp/business/datekimiko/>

認定NPO法人マナーキッズ®プロジェクトについて 第3版

認定特定非営利活動法人「マナーキッズ®プロジェクト」10/29

<http://www.mannerkids.org/>

日本テニス協会 (2011/11/2 閲覧)

<http://www.jta-tennis.or.jp/index.html>

日本テニス連合 (2011/11/5 閲覧)

<http://www.tennis.or.jp/comment.html>

マナーキッズ®テニス教室 開催マニュアル 第4版

安原美里 (2000)「ショートテニス体験が子供の心に及ぼす影響に関する一研究」

資料

「子どもにマナーを身に付けさせるために意識的に行っている取り組みについて」

教師自身の取り組みや学校・クラス・学年単位での取り組みについて、以下の意見があった。

1	朝の読書活動で読み聞かせにおいでになった方や来校者（昼休み等で臨機応変に対応）にお茶を出す、接遇指導を数年前から年間を通して継続的に行っている。
2	最近の子ども達は、あいさつ・礼儀に対して学校では指導しているが、効果があまりみられていないところがある。学校外から来て頂いて、運動を伴って指導して頂いて、とてもよかったと思う。
3	言葉づかいの指導を繰り返しています。
4	朝、校門に校長、看護当番の教員、養護教諭が立ち、あいさつをしています。子ども達は立ち止まってあいさつとおじぎをします。
5	小笠原流のあいさつの仕方を全学年で行っています。
6	小笠原流の挨拶を全学年で取り組んだことで、現在、全児童が挨拶を相手の目を見て言ってから、頭を下げる習慣がついています。有難いです。
7	毎朝の朝のあいさつは声を大きく出させています。
8	朝、帰り、給食のあいさつなどをきちんとさせるよう指導しています。
9	市民科の学習で扱っている。
10	日頃の生活指導で取り組んでいる。（そのつど指導）市民科の授業でもマナーについて学んだ。
11	市民科の授業や朝の会の話で常に話している。
12	立腰姿勢を意識させるための掲示、「あしか（あるく、しずかに、かならず右）」という標語を学校で取り組んでいる。
13	あいさつの指導。発表の仕方。給食指導。等。
14	正しい姿勢であいさつするように声かけ。あいさつ週を間もうけて正門に立ってあいさつさせている。
15	「あいさつ運動」の継続。振り返り、反省の徹底。定期的な全校・学年・学級指導。
16	積極的に自分からあいさつをする。
17	校内や小中連携してのあいさつ運動。
18	廊下歩行や靴箱の靴のしまい方（かかとをそろえる）など。
19	教えていただいたとおり、あいさつしてから礼をするようにしている。
20	あいさつの指導。（おはようございます。ありがとうございます。）話を聞くときの姿勢。

21	朝、帰りのあいさつ指導。授業中の規律について指導徹底。給食、清掃を毎日指導。
22	相手の目を見て、話す、聞く、挨拶などの規律。(学習規律も含む)
23	朝、帰り等、あいさつについては日常的、継続的に指導している。(来客者に対して、食事前後、始・終業時)
24	朝と帰りの挨拶。授業始めと終わりの挨拶。食事前後の挨拶。給食当番が戻ってきたときの全員挨拶。
25	開始・終了のけじめをつけさせるため、全員が良い姿勢になるまで待ってからあいさつをする。名前を呼ばれた際、「はい」と返事することを習慣付ける。
26	全校朝会であいさつの上手な子をあいさつ賞に選び、表彰している。
27	あいさつをしっかりとすること。
28	挨拶と返事は大きな声で、相手の目を見て、心を届ける。
29	話を聞く姿勢やあいさつなど常に意識させるとともに私自身が積極的に声かけをし、あいさつをしています。
30	毎朝や毎時間のあいさつ。
31	その都度、指導し、継続しています。
32	あいさつ、いろいろな物のとりあつかい方、会話の仕方、自己表現の方法、行動など。
33	日常的に指導しています。
34	日常的に指導しています。あいさつの重要性やり方など。
35	普段のあいさつが何気なくできるように、いつも声かけして身につけさせている。
36	気付いた時、直したらいいことを声かけする。「目を見て」と意識づけている。
37	朝のあいさつ等、自分から気持のよいあいさつをする。(地域の方にも)また、あいさつされたら必ずかえすことに学年で取り組んでいます。

「その他の意見」

マナーキッズ®テニス教室について、感謝の言葉や改善点など様々な意見がよせられた。多かった意見は「貴重な体験になった」「生徒・教師ともに学ぶことがあった」「ありがとうございました」という意見である。中には、具体的な改善点などを指摘してくれている意見もあった。

1	3年振りの開催であったが、スタッフの皆様には、準備段階から大変お世話になりました。鈴木先生から学べたこともかけがえのない体験となりました。
2	マナーと礼儀は、少し違うと思います。スポーツのルールと混同しない指導が必要だと思います。

	います。
3	7月で成績のため、学習を進めたい時期でしたので、別の時期に実施してほしい。
4	マナーキッズテニス教室、ありがとうございました。
5	教職員(特に若手教員)にとっても、挨拶の意味や指導について勉強になったと思います。多くのボランティアの方が出向いて下さり、「感謝」を指導する、とい契機となりました。
6	ご足労いただき、子ども達は大変有意義な時間を過ごせました。ありがとうございました。
7	ありがとうございました。
8	いつも大変お世話になっております。これからも毎年「マナーキッズテニス教室」を実施していただきたいと思っております。今後とも、ご指導の程、よろしくお願い申し上げます。
9	「テニスを楽しみながら、マナーについても学ぶことができました」と子どもの学習後の感想には書いてありました。本当に貴重な体験となりました。有難うございました。
10	その折は、お世話になりました。また機会を設けてできたらと思います。
11	心をこめてあいさつする大切さと、スポーツの中でのあいさつの大切さが子どもの中で、つながっていないように思いました。
12	当日、水飲みタイムはありましたが、トイレタイムがなく、給食指導時間にもくいこみ、その後が大変でした。低学年向きに、全体の時間を配慮していただきたかったです。急な体形、整列移動は低学年には難しいですし「列になって」と言われましても、各学級なのか、各学年なのか、全体なのか分かりませんでした。全体指導者とほかの指導者そして担任との詳しい打ち合わせが必要な印象を受けました。雑巾がけも全員が準備する前にスタートしたりと内容をこなすことに重点がおかれていて、子ども達への配慮があとになっていた気がしました。
13	あいさつのしつけの基本は、やはり家庭です。もともとあいさつの習慣があるものを学校等で、よりよくしていくことはできても、習慣化自体をつけるのは大変難しいものがある。
14	あいさつやお礼の言い方、仕方がよくわかったので、良かったです。

マナーキッズ®テニス教室に関する調査

問1 記入者ご自身についてお聞きします。

- (1)年齢・性別 ()歳 1.男性 2.女性
 (2)担当学年 ()学年 その他()

問2 「お辞儀・あいさつ」の講座を全校児童が受けましたか。

- 1.全校児童で実施 2.全校児童では実施せず

問3 マナーキッズ®テニス教室を受けたのは何年生ですか。また、受講人数は何人ですか。

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
実施した 印						
受講人数 (人)						

問4 マナーキッズ®テニス教室に対する評価について、当てはまる数字をお選びください。

	とても 思う	まあまあ 思う	どちらとも いえない	あまり 思わない	まったく 思わない
(1)子ども達は意欲的に教室に参加していた	5	4	3	2	1
(2)子ども達は集中して取り組んでいた	5	4	3	2	1
(3)本教室は全体として満足のいくものだった	5	4	3	2	1
(4)教室実施中、子ども達の笑顔があった	5	4	3	2	1

(5)子ども達の声がとてもハキハキしていた	5	4	3	2	1
-----------------------	---	---	---	---	---

問5 マナーキッズ®テニス教室受講後の児童の様子について、当てはまる数字をお選びください。

	とても 思う	まあまあ 思う	どちらとも いえない	あまり 思わない	まったく 思わない
(1)本教室後、自ら他人と接する子どもが増えた	5	4	3	2	1
(2)子ども達が積極的にあいさつをするようになった	5	4	3	2	1
(3)授業においても子ども達の態度が良くなった	5	4	3	2	1
(4)相手の目を見てあいさつができる子どもが増えた	5	4	3	2	1
(5)人の話を聞くときの姿勢や態度が良くなった	5	4	3	2	1

問6 変化はどのくらい続いたか、当てはまる数字をお選びください。

1. 1週間 2. 1ヶ月 3. 2ヶ月
4. 3ヶ月 5. ずっと続いている

問7 マナーキッズ®テニス教室実施後のフォローについて、当てはまる数字をお選びください。

< 先生ご自身の指導状況についてお聞かせください。 >

	積極的に 実施	まあまあ 実施	たまたま 実施	あまり 実施せず	まったく 実施せず
(1)朝、校門で、児童の目を見て「おはよう」と声をかけていますか。	5	4	3	2	1
(2)授業開始時と終了時に、姿勢を正してあいさつするように指導していますか。	5	4	3	2	1
(3)家庭や地域社会において、「おはようございます」「こんにちは」とあいさつするように指導していますか。	5	4	3	2	1

< 児童の様子についてお聞かせください。 >

	積極的に 実施	まあまあ 実施	たまに 実施	あまり 実施せず	まったく 実施せず
(1)朝、校門で、先生の前に立ち止って、先生の目を見て「おはようございます」とあいさつしていますか。	5	4	3	2	1
(2)朝礼開始時に、全員で姿勢を正して「おはようございます」とあいさつしていますか。	5	4	3	2	1
(3)体育座りの際、背中を伸ばし、女子は膝をくっつけていますか。	5	4	3	2	1
(4)授業開始時に、先生がドアを開けて入ってきたら、全員起立していますか。	5	4	3	2	1
(5)授業開始時に、姿勢を正して「よろしくお願いします」とあいさつしていますか。	5	4	3	2	1
(6)授業中、おしゃべりしないで授業に集中していますか。	5	4	3	2	1
(7)授業終了時に、姿勢を正して「ありがとうございました」とあいさつしていますか。	5	4	3	2	1
(8)来客者に対して、立ち止って「おはようございます」「こんにちは」とあいさつできていますか。	5	4	3	2	1

問8 マナーキッズ®テニスの普及について取り組んでみたいことがありましたら、当てはまるものに 印をつけてください。(複数回答可)

1. クラブ活動(4年生以上)にショートテニス部を加えたい
2. マナーキッズ®テニス同好会(全学年)を結成し、週1回程度の練習機会を持ちたい
3. 文部科学大臣杯マナーキッズ®テニス全国小学生団体戦に出場してみたい
4. 特に取り組みたいものはない

問9 マナーキッズ®カレンダーの活用について、当てはまるものに 印をつけてください。

(複数回答可)

1. 生徒はルール通り活用している
2. 教師はルール通り活用している

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。